

幼 兒 の 家 庭

東京女子高等師範學校附屬幼稚園

一、職業の調査

本年二月施行した入園検定に於て得た僅少の材料から調査したものである。男女児三百餘名中から抽籤によつて選定した候補者についての調査で何等の人工的標準を以て取捨したものではない。

種 類	男		女		合 計	
	不合格者	合格者	不合格者	合格者	不合格者	合格者
商 業	一五	一一	一〇	五	二五	一六
會 社 員	一一	一〇	一〇	一五	二一	二五
工 業	五	三	二	一	七	三
醫 師	四	一一	九	八	一三	一九
官吏教授	四	一一	一	六	五	一七
辯護士	一	一	三	一	四	一
軍 人	一	一	一	三	一	三
計	四一	四一	四一	四一	八二	八二

雑	九	八	一七	六	四	一〇	一五	一一	二七
合計	四九	五四	一〇三	四一	四一	八二	九〇	九五	一八五

以上の結果を見ると

第一に當幼稚園入園志望者百八十五人につき検定せしものであるがその中會社員最も多く次に商業を営むものが多い。驚くべきことは、醫師が三二人で第三位なることである。官吏並に大學教授専門學校教授等の二十二人も多い方である。これによつて幼稚園入園を希望する家庭の種類が如何なるものなるかを大體窺知し得るのである。

第二に検定に合格せるもの即ち入園を許可せるものとせざるものとの關係が窺知出来る。滿四歳位の幼児を一回にて檢定するのであるから檢定がその幼児の優劣を十分に判定し得るとは斷言出来ない。しかし少くとも檢定當時に於ける幼児の精神並に身體の發育良好なるものが合格者と決定せることは明白であるからして家庭の種類と幼児の優劣との關係は略推定するに難くない。檢定の際には毫末も家庭の職業について考量せざるものがこの統計に現はれたる如き事實を見ることは必ずしも偶然の結果なりと判定することが出来ない。商業を營む家庭の幼児では合格者が僅かに三十九%であるが會社員の家庭の幼児では合格者が五四・三四%、醫師の家庭の幼児では合格者が五七・八一、官吏・教授の家庭の幼児では合格者が七七・二七%の高率を示してゐる。是等の事實に對する解釋はこの統計の僅少なる數についての結果なるを以て適切を缺くの虞がありまた種々複雑なる條件が原因してゐることを想定し得るが故に特に省略して讀者の判斷に一任することにする。

二、兄弟姉妹數

この統計も亦少數についてのものであるから發表する程の結論を求めることが出来ない。けれども折角調査したことで

あるからその散逸することを感れ且つ同好の方の助力を愾するために敢へて發表することを豫め斷つて置く。

○兄弟の數

不合格者	合格者	計	不合格者	合格者	計	不合格者	合格者	計
男		女		合		計		

兄弟の無きもの	一人あるもの	二人あるもの	三人あるもの	四人あるもの	五人あるもの	六人あるもの	七人あるもの	八人あるもの	○弟	○妹	○弟妹の數	弟妹なきもの	一人あるもの	二人あるもの	三人あるもの
一七	一一	七	二	二	三	四	一	一	一	一	一三	一六	二八	四四	三三
一一	一一	八	六	一	一	二	二	二	二	二	一六	二八	四四	一〇	一〇
三〇	二二	一五	八	三	三	五	二	二	二	二	三八	四四	一〇	一〇	一〇
一四	一一	六	三	三	一	一	一	一	一	一	二〇	一四	一四	三	三
九	六	一一	三	二	二	二	二	二	二	二	一四	一八	六	六	六
二三	一七	一七	六	五	六	三	三	三	三	三	三四	三二	九	九	九
三一	二二	一三	五	五	四	五	一	一	一	一	四二	三〇	八	八	八
二二	一七	一九	一〇	五	五	三	二	二	二	二	三〇	四六	一一	一一	一一
五三	三九	三二	一五	一三	九	八	二	二	二	二	七二	七六	一九	一九	一九

幼児の家庭

右の表に於て説明すべき第一の事項は兄弟も弟妹もなき所謂獨り子と、兄弟なきも弟妹のある長子と弟妹はないが兄弟のある末子とは明白に數字に現はれてゐないことである。これは特に統計せねばならぬ事項であり面白い關係があると思はれるが茲では明白にすることの出来ないことを遺憾とする。檢定の際戸籍謄本を全部調べることの出来なかつた關係上止むを得ないのである。更に方法を講じてこの方面に關する調査をなすことを目的としてゐることを附言する。第二に兄弟のなきもの及び弟妹のなき幼児が著しく多いことは注目に値する。而して第三に兄弟の數と合格者數との關係を見ると次の如くなることである。

兄弟のなきもの	四一・五一%
兄弟一人のもの	四三・五九%
兄弟二人のもの	五九・三八%
兄弟三人のもの	六六・六五%
兄弟四人のもの	六一・五四%
兄弟五人のもの	五五・五六%
兄弟六人のもの	三七・五〇%
兄弟七人のもの	一〇〇・〇〇%
兄弟八人のもの	一〇〇・〇〇%

この歩合に於て兄弟七人もの及び兄弟八人ものものは僅々實數各々二人についてのことであるから殆ど考量するに足らぬ。只兄弟が多くとも末子であるとも父母の愛の行届き、幼児の身心發育に決して不良でないことを例示するに止まる。而して兄弟三人あるもの及び兄弟四人なるものが何れも高率を示すに反して兄弟のなきも、兄弟の一人なるものが比較的

合格歩合の悪しき點は相當注意せねばならぬ點である。幼少の時程兄弟の有無が彼等の發育に關係することの大なることを語り兄弟なき兒は比較的父母の手が行届くにもかゝらず身心の發育の宜しきもの少なきことを示すことは家庭の親たるものが反省すべきことを暗示するものといはねばならぬ。

更に弟妹の數と合格者との關係を歩合にて示すと左の如くなる。

弟妹なきもの	四一・六七%
弟妹一人あるもの	六〇・五三%
弟妹二人あるもの	五七・九〇%
弟妹三人あるもの	一〇〇・〇〇%

満四歳の幼児で弟妹の三人あることは異數であるから問題とすることは出来ない。しかし弟妹なきものよりも弟妹一人あるものでも弟妹二人あるものでも合格歩合の大なることは重要な事實を語るものでなくてはならぬ。弟妹なきものは父母の愛が一身に集つてゐる關係から却つて身心の發育が正常を缺くことが多いことを豫想し得ることを悲しむのである。我儘であるとか泣き蟲であるとかいろいろの關係から合格者の少なき事實を生ずるものとせば長子の悲哀と共に末子の不幸を考へねばならぬ。しかし父母の手が行届くの故を以て或は親の愛が濃密なる理によつてかゝる現象を呈するものとせば家庭の母たるもの餘程覺醒せねばならぬことを示すものではないか。

三、哺乳の種類

幼児の營養として母乳牛乳母乳の乳等に關する調査をなしたところは左の如くである。

種類	男			女			合計		
	不合格者	合格者	計	不合格者	合格者	計	不合格者	合格者	計
母乳	三四	三八	七二	二七	三一	五八	六一	六九	一三〇
牛乳	三	二	五	五	二	七	八	四	一一
母乳牛乳併用	六	一一	一八	八	六	一四	一四	一八	三二
乳母の乳	二	一	三	一	一	二	三	二	五
牛乳併用	一	二	三	一	一	二	一	三	四
乳母の乳併用									

以上の統計表を見ると牛乳だけで保育せるものまたは乳母の乳で保育せるもの、更に牛乳と乳母の乳を併用して保育せるものは甚だ少數なることが分る。母乳保育を厭ふ風が漸次に増加せんとする時代に於て是等のものゝ少數なることは喜ばしきことである。而して是等の哺乳法によれる幼児の發育を合格不合格より判定することは數が甚だ貧弱であるから殆ど問題とはならぬが茲に合格歩合を示すと左の如くなる。

- 母乳のみにより保育せるもの 五三・〇三%
 - 牛乳のみにより保育せるもの 三三・三三%
 - 母乳と牛乳とを併用せるもの 五六・二五%
 - 乳母の乳により保育せるもの 四〇・〇〇%
 - 牛乳と乳母の乳とを併用せるもの 七五・〇〇%
- これによつて見ると牛乳と乳母の乳とを併用せるものが合格歩合最も大なるも實數僅かに四人につきての問題であるから全く信用するに足らぬ。牛乳のみの保育者と乳母の乳のみによる保育者の歩合小なるは多少考量するに足ると思はれる。

尙ほ母乳のみの保育者と母乳と牛乳とを併用せるものゝ歩合比較は尙ほ多數者につき研究する必要があるけれども兎に角或種の眞理を含むものと認むることが出来ると思はれる。

四、出生月

幼児の出生せる月が 何であるか試みに調査せる所を併せて茲に發表して置く。これは著しく數の小さきものについての統計であるから何等の結論をも見出すことが出来ないものである。しかし調査の散逸を防ぐ一助として發表するものである。

月次	男		女		合	
	不合格者	合格者	不合格者	合格者	不合格者	合格者
一月	三	五	一	八	一	一三
二月	八	六	四	二	二	八
三月	五	七	八	三	一	一〇
四月	二	二	一	九	三	一
五月	三	五	一	三	三	一
六月	四	八	一	一	三	八
七月	一	二	三	五	四	七
八月	七	五	一	二	八	七
九月	七	五	五	一	二	五
計	八	一四	一	一九	一四	二七

右の表に於て一月生のもの多くして十二月生のもの少きことは十二月末に生れたものを一月生と届けたるものあるかも知れずといふ疑問を起させるものである。また一月二月三月の三ヶ月間に生れたもの七十人なるに四五六の三ヶ月間に生れたものは僅かに三十七人、七八九の三ヶ月間に生れたもの四十三人、十、十一、十二の三ヶ月間に生れたもの三十八人である。偶然とはいへ一二三月間に出生せるもの著しく多きを知ることが出来る。之を合格不合格者につき比較すると左の如き結果を生ずる。

種	類	不合格者	合格者	計	合格者の歩合
一、二、三	の三ヶ月間に出生せるもの	三九	三一	七〇	四四・二九
四、五、六	の三ヶ月間に出生せるもの	一〇	二七	三七	七二・九七
七、八、九	の三ヶ月間に出生せるもの	二四	一九	四三	四四・一九
一〇、一一、一二	の三ヶ月間に出生せるもの	二〇	一八	三八	四七・三七

右の表を見ると四、五、六の三ヶ月間に生れたる幼児の合格歩合が他と比較にならぬ位に優秀なることを見る四月、五月、六月生れの幼児は一月、二月、三月に生れたるものよりも約一ケ年も年長者と見ることが出来るからその身心發育の良好なることは至極當然といはねばならぬ。これが小學校時代までも影響することは教育者が大に考量せねばならぬ事實で幼児や兒童の出生月によりて大に發育狀況の異なることを念頭に置いて學級編制も考へねばならず一學級のものを取扱ふ上にも注意せねばならぬ。